

岡山県の繊維産業

平成 23 年 2 月
岡山県

目 次

第1章 岡山県繊維産業の歴史	1
①江戸時代 ②明治時代 ③大正時代 ④昭和時代 ⑤まとめ	
年表	7
第2章 岡山県の主要品目	9
①学生服	9
(1) 学生服業界を取り巻く環境	
(2) 統計からみる岡山県の学生服製造	
(i) 学校服4品目 (ii) 学校体育衣料	
(iii) 織物製スクールシャツ	
(3) 岡山県の学生服業界	
②ワーキング・ユニフォーム	12
(1) ワーキング・ユニフォーム業界を取り巻く環境	
(2) 岡山県のユニフォーム業界 (3) まとめ	
③ジーンズ・デニム	15
(1) ジーンズ市場と産地岡山県の位置付け (2) 岡山県のジーンズ業界	
(3) 岡山県のデニム(デニム生地) (4) 岡山県のジーンズ染め・洗い加工	
第3章 岡山県繊維産業の特徴・優位性	19
①総論 ②岡山県繊維産業は製品型 ③生産背景に強み	
④環境対策 ⑤海外で高い評価	
第4章 繊維産業振興に向けた取り組み	23
● 児島ジーンズストリート	
● ジーンズミュージアム	
● D# The Store(ディー・シャープ・ザ・ストア)	
● 倉敷ファッションフロンティア/せんい・児島瀬戸大橋まつり	
● トンボ歴史資料館(八正館) トンボ・ユニフォームミュージアム/ 児島学生服資料館	
資料編	28
● グラフ・表 ● 全国上位品目 ● アンケート集計結果	

第1章 岡山県繊維産業の歴史

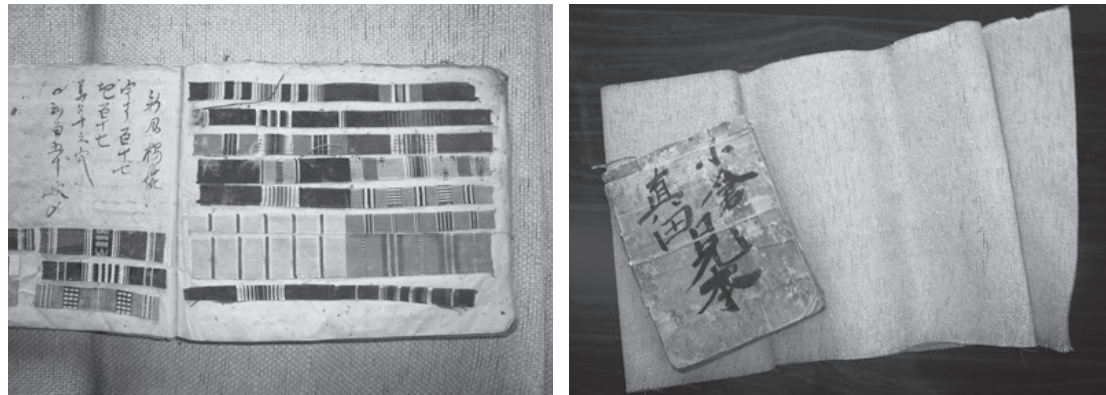
1 江戸時代

かつて岡山平野の大部分は海で、現在の倉敷市児島一円は文字どおりの島だったが、江戸時代初期には干拓により本土と陸続きとなった。

干拓地の新田は塩気があり、すぐには米作りができないため、塩気に強い綿花が米の代わりに盛んに栽培された。

また、当時の児島地域は、耕地面積の割に人口が多い、労働力が豊富な土地柄であり、その労働力を利用して、新田で栽培された綿花から糸を紡ぎ、機を織り、付加価値をつけて雲斎織^①などの木綿織物にして売られるようになり、繊維産業が根付いていった。

さらに、金毘羅と並ぶ信仰地としてにぎわった児島地域の北部にある由加山で、参拝客らに真田紐^②や小倉帯地^③が土産として人気を博し、現在の児島田の口、唐琴^{からこと}地域に織物業が発展した。



小倉織の見本帳 明治35年頃の品

一方、井原地域（現井原市）も綿花、織物の産地であった。井原地域は、温暖な気候に恵まれているが、米作に向く土地が少なく、江戸時代から綿花の栽培が盛んであった。さらに、天和年間（1681～1684）に伝来した藍の栽培が行われるようになってからは、これを用いた藍染厚地織物が多く作られた。

井原地域は旧山陽道に面し、参勤交代の宿場町として栄えていたことから、参勤交代で行き来する人たちに藍染厚地織物が評判となり、特産品として全国に広まっていったことで、井原地域の繊維産業の基礎が築かれた。

① 近世、美作(みまさか)津山の雲斎が始めた綾織の綿織物。丈夫で、足袋底や前掛けに用いられた。
② 真田幸村(ゆきむら)の父昌幸(まさゆき)が刀の柄(つか)に巻いていたことから名前が付いたと言われる細幅の織物。組紐に比べ伸びにくく、丈夫であったため、鎧兜の紐・帯締め等に使われ、桐箱の紐などにも使われた。
③ 小倉織は江戸時代の豊前小倉藩で生まれた、縦縞を特徴とした木綿の織物。高密度な経(たて)糸、太い緯(よこ)糸で織られ、染めが良く、良質で丈夫なため、日常着や武士の帯地として広がっていた。

2 明治時代

明治時代となり、政府は、殖産興業の下、各種産業の近代化を進めていくが、中でも繊維産業は最も重要なものであり、岡山県においては、「勸業上最も急を要するもの」として、第1に養蚕・製糸、第2に紡績事業及び木綿織物の拡張を図ることが農商務省編「興業意見」^④に挙げられるほどであった。

明治前期の岡山県における殖産興業政策の中で、養蚕・製糸、綿紡績は重要な二部門であり、県では、養蚕糸伝習所(現津山市山下)や製糸場(現笠岡市笠岡)を設置するなど、力を入れており、明治半ばには、岡山県中・北部を中心に多くの民間の製糸工場が設立された。

紡績業に関しては、増加する輸入綿糸を国内綿糸に転換していくため、政府は、民間綿紡績業を育成、奨励しており、イギリスから購入した10基の紡錘機を民間に無利息10年賦で払い下げ、全国9カ所に民間紡績所が造られた。そのうちの2つは、明治13年(1880)に渾大坊埃二、益三郎兄弟によって設立された日本最初の民間紡績所と言われる下村紡績(現倉敷市児島)と、明治15年(1882)開業の玉島紡績(現倉敷市玉島)であった。



笠岡製糸工場内



解体(平成1年)前の下村紡績所

その後、明治21年(1888)に倉敷紡績、明治27年(1894)に笠岡紡績など、紡績会社が次々と設立された。

児島地域の繊維産業は、明治時代に入り、由加山の参拝客が減少し、土産物として人気のあった真田紐、小倉帯地が売れなくなったことから、県外に販路を拡大するとともに、袴地や前掛地に転換していった。さらに、明治末期の日清・日露戦争後は、与田

④ 明治17年(1884)農商務省大書記官前田正名(まさな)が編さんした、農工商業の実情調査報告と停滞の原因、将来の振興策を述べた意見書。

銀次郎^⑤、角南万次郎^⑥らが、真田紐を改良した韓人紐、^{たいたいつ}腿帶子、弁髪紐を盛んに韓国、満州に輸出するなど、時代の変化に対応していった。

また、井原地域の織物業は、参勤交代がなくなったため一時苦境に立ったが、次第に広幅織物に移行しながら、全国に販路を開拓し、明治30年代中頃から小中学校の制服用に、霜降り小倉^⑦、黒小倉、紺小倉を販売して成功した。



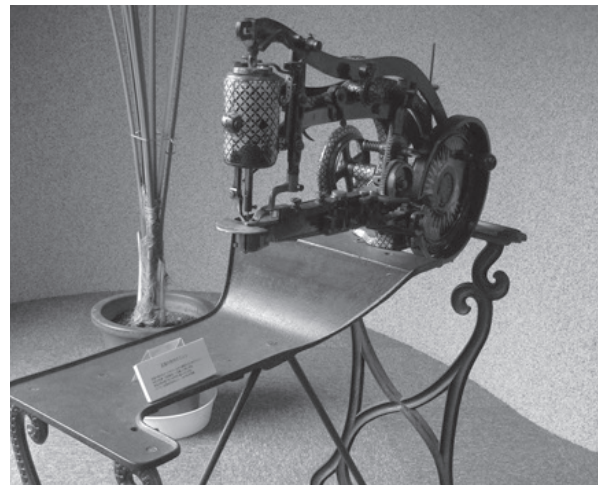
腿帶子。当時中国で穿かれていた袴の裾を束ねるための帯

3 大正時代

大正時代に入ると県外大手企業の進出などの影響を受け、地元の民間製糸工場は経営が安定せず、昭和にかけて衰退していった。

腿帶子などの輸出は、中国の国産愛用運動の影響もあり逡減したため、児島地域の織維業者の多くは足袋に生産品目を切り替え、国内向け販売にシフトしていった。

足袋製造は、明治39年（1906）^{まつみあけぼの}松三 曙 が初めて児島に動力ミシンを導入して以来発展し、大正期に全盛期を迎えた。岡山県の生産額のピークは大正12年（1923）の約1,077万円、生産数量のピークは大正8年（1919）の約2,025万足であったが、その後、服装の洋風化により1920年代に後退期を迎え、代わりに急速に成長するのが洋服の製造であった。



足袋の指先を縫製するためのミシン。1900年代初期にヨーロッパより輸入されたもの。

生活様式の変化に合わせ、大正末期から児島地域の業者は、足袋生産の裁断・縫製技術を活用し、学生服、作業服製造へと転換し、昭和にかけて被服縫製が主要産業になっていった。それに伴い、染色・整理業、ミシン販売、ボタン製造などの周辺業種が集積

⑤ 安政5年生まれ。実業家。明治23年朝鮮半島に渡り、韓人紐の輸出に着目して製作を始め、販路を拡張した。腿帶子を量産し、輸出織物業者としての地位を築いた。染料の開発もしている。大正4年死去。

⑥ 鴻村（現在の児島下の町、上の町）の人物。韓人紐を創出した。

⑦ 白い繊維と、黒、紺、灰色などの色繊維を混ぜて紡績した糸で織られた小倉織。霜が降りたように白い斑点が散らばっており、夏の学生服に使われた。

し、産地として発展していった。

大正7年（1918）、角南周吉は、現児島上の町に「角南洋服裁縫実習所」を開設し学生服縫製を始め、学生服の創始者として現在に伝えられる。また、現児島小川の「児島織物合資会社」（明治29年（1896）設立）で、大正10年（1921）頃から霜降りの学生服を量産した^{やもりぜんべい}家守善平も先駆者として知られている。



左) 学生服量産先駆者の一人、家守善平の像（倉敷市児島小川）
中) 現存する小倉織学生服。右側が霜降りと呼ばれる生地
右) 昭和初期の霜降り学生服生産工場の作業風景

第一次世界大戦以後の戦後恐慌を契機に、従来の足袋生産から地元特産の小倉厚織地を使った学生服への転換を図る企業が増え、新市場の開拓に成功して、うまく恐慌を乗り切ることができた。

また、大正10年（1921）には、児島唐琴の^{まついぶへい こうきなたかべり}松井武平が光輝畳縁の生産を開始した。

大正12年（1923）の関東大震災で畳縁の需要が飛躍的に増大し、昭和に入ると現児島唐琴地域で、全国の30%を生産するようになり、光輝畳縁の一大産地となった。現在、全国の畳縁の80%がこの地域で生産されている。

井原地域の織物業は、大正元年から、オーストラリア、ニュージーランド、中南米諸国、アジア、インド、欧州各国に小倉服地の輸出を開始し、第二次世界大戦まで続いた。

4 昭和時代

岡山県の織物業界では、明治以来の、綾綿布、綿小倉、袴地、雲斎など多様な製品の生産が続いていた。

縫製品では、大正からの服装の洋風化の流れに乗って、児島地区で生産される綿の学生服が「運動しやすく着物より丈夫で安価」と、急速に市場に浸透し、昭和12年（1937）頃には、ほぼ全国の市場を独占していた。学生服生産のための紡績～撚糸～織物～染色～縫製という一貫生産体制も地場に形成され、協業関係が築かれていた。

戦後、昭和27年（1952）頃から合織学生服時代が始まり、合織メーカーの系列化が進

み、従来の紡績～撚糸～織物～染色～縫製という産地一貫生産体制は崩れた。学生服素材の染色業者にとって、体制の崩壊は死活問題であったが、作業服用生地への染めなどに転換することで、活路を見出した。一方、合織系列外の学生服メーカーは新たな道を探ることになり、ジーンズに着目した。



国産ジーンズの祖 尾崎小太郎氏



草創期に児島で生産されたジーンズ

昭和39年（1964）秋、マルオ被服（現在の株式会社ビッグジョン）では、尾崎小太郎社長（当時・故人）ら、幹部3人が相談し、ジーンズの生産販売を開始することを決め、早速アメリカのデニム生地メーカーからデニム地50反を輸入した。昭和40年（1965）4月、自社で縫製したジーンズを発売。これが、国内で縫製されたジーンズとしては第1号であり、児島は「国産ジーンズ発祥の地」と言われるようになった。その後、昭和40年代にはジーンズブームが起り、新規参入が相次いだ。

井原地域の繊維業界は、戦後、合織織物の生産が飛躍的に増え発展した。備中織物構造改善工業組合の資料によると、昭和35年（1960）に年間生産量が4,200万平方メートルで最高を記録している。しかし、業界の多くが大企業の下請けであったため、その後の構造不況により合織織物業者の廃業が続いた。

一方、綿織物の製造を続けていた業者は、昭和35年頃からデニムの国内生産を始め、昭和40年代のジーンズブームで活況を取り戻した。今日では、井原のデニムは世界的に高い評価を得るようになっている。

井原地域では、織物だけでなく、ジーンズ生産も行われており、昭和48年（1973）のピーク時には1,500万本のジーンズ生産量を誇っていた。ジーンズが日本に入ってくる以前から、現在のデニムに類似した裏白紺小倉織物が生産されており、デニムも早くから生産されていたことから、井原地域は「ジーンズのふるさと」と言われている。

5 まとめ

岡山県の繊維産業は、江戸時代の綿花栽培をルーツとして発展し、綿花栽培、紡績業、綿織物、真田紐、足袋へと移行する中で有形、無形のノウハウを積み重ね、その伝統の流れの中で児島地域の学生服は生まれた。つまり、①小倉織などの原材料の存在 ②足袋の裁断・縫製技術、生産設備の応用 ③紐、織物、足袋などの確立した全国販売網の活用などの好条件がそろっていたからこそ、学生服製造が発展したのである。昭和37年（1962）頃をピークに小学校の自由服装化、学生数の頭打ち傾向などから需要が減り始め、さらに、団塊の世代が高校を卒業する昭和43年（1968）頃から学生服メーカーの競争が激化したが、産地内で競争しながら、お互いが切磋琢磨する中で、生産力・販売力・技術力、品質のレベルアップが進み、全国的にますます強い産業になっていった。

一方、ジーンズは、岡山県の繊維産業の伝統的な流れとは別に、新しく持ち込まれたものであり、アメリカから輸入される中古ジーンズをモデルに、同じものを国内で作ろうとしたものだ。しかもジーンズ製造は、芯白糸のデニム生地、縫い糸、ファスナー、ボタンなどの付属材料をはじめ、厚手のデニムを縫えるミシン設備も、製品の販売先もない、何も無いところからのスタートであった。昭和40年（1965）に、アメリカのデニム生地を使用したジーンズが初めて日本で作られたが、生地だけでなくボタンなど付属材料のほとんどがアメリカ製であった。やがて、純国産ジーンズが作られるようになるのに伴い、素材、付属材料、洗い加工などの関連業種が生まれたが、これら関連業種は、今まで岡山には無かった新しい分野で、岡山県の繊維産業の発展拡大に大きく貢献している。ジーンズは、岡山に新しい繊維産業を持ち込み、さらにジーンズ洗い加工業など新しい業種を生み出し、産地の活性化に大きく貢献した。

また、真田紐の伝統は、児島唐琴地域を中心に畳縁などを生産する細幅織物業界に引き継がれ、綿織物の伝統は、帆布、デニムを主力に引き継がれ、国内だけでなく、国外でも高く評価されている。

以上のように、①江戸時代からの伝統と、ジーンズに代表される革新性が共存する繊維産地を形成している ②集団で着用が定められる制服から、自由な服装の代表アイテムであるジーンズまで幅広い品目の産地であることが特徴である。岡山県の繊維産業は伝統の良さや新しいものを生み出すパワーの両方を備えた、多様な製品を作り出すことのできる、懐の深い産地とすることができる。

岡山県繊維産業歴史年表

時代	社会	年	岡山の繊維産業
江戸	(初期) 児島湾干拓事業で児島と本土が陸続きになる。		干拓地での綿花栽培が岡山県繊維産業のルーツ 干拓地で綿花栽培が盛んに行われる。
	(中期) 北前船の運送が発達・下津井港が栄える。	天和年間 (1681~1683)	藍の栽培が始まり、井原で藍染織物がつくられる。
	(後期) 由加山が金比羅と並ぶ信仰地としてにぎわう。		由加山参拝客に児島特産の真田紐、小倉織が評判になり児島で織物業が発展する。
	廃仏毀釈運動起こる。		明治に入り由加山参拝客が減少。真田紐、小倉織の需要が減る。
		明治7(1874)	笠岡製糸場設立
		明治10(1877)	津山養蚕製糸伝習所設立
	政府がイギリスから10基の紡錘機を輸入し、民間に無利息で払下げ。	明治12(1879)	
		明治13(1880)	下村紡績設立
		明治14(1881)	玉島紡績所設立
		明治21(1888)	倉敷紡績設立
明治		明治24(1891)	地方最初の動力織機を導入した井原織物所が設立
	日清戦争勃発	明治27(1894)	笠岡紡績設立
	日清戦争終結	明治28(1895)	
	日露戦争勃発	明治37(1904)	
	日露講和条約締結	明治38(1905)	
		明治39(1906)	この頃から与田銀次郎らが腿帯子、韓人紐を朝鮮半島・中国大陸へ輸出 松三曙が初めて足袋製造で動力ミシンを導入
	第一次世界大戦勃発	大正3(1914)	
	第一次世界大戦終結	大正7(1918)	角南周吉が学生服生産を開始
		大正8(1919)	岡山県の足袋生産数量が約2025万足でピーク
	第一次世界大戦の戦後恐慌	大正9(1920)	足袋は後退期を迎え、代って洋服が成長
大正		大正10(1921)	松井武平が光輝量縁の生産開始
			この頃家守善平が児島織物(合)で学生服の量産開始
	関東大震災	大正12(1923)	

時代	社会	年	岡山の繊維産業
昭和	金融恐慌	昭和2(1927)	
		昭和12(1937)	この頃から小倉織学生服の黄金期
	禁綿三法施行	昭和13(1938)	
	太平洋戦争勃発	昭和16(1941)	
	太平洋戦争終結	昭和20(1945)	
	禁綿三法解除	昭和25(1950)	解除学生服生産再開急成長
	朝鮮戦争の特需景気	昭和27(1952)	この頃からビニロン、ナイロン、テトロン合織学生服時代
	神武景気	昭和30~昭和32 (1955~1957)	第1回児島繊維祭(現 せんい児島瀬戸大橋まつり)開催(昭和30年)
	岩戸景気	昭和33~昭和36 (1958~1961)	
		昭和38(1963)	学生服生産数量1006万着でピーク
平成	東京オリンピック	昭和39(1964)	光輝量縁生産向上。日本一に。
		昭和40(1965)	ビッグジョン(当時マルオ被服)が初の国内縫製ジーンズ発売 同年日本初の洗い加工ジーンズを発売
	いざなぎ景気	昭和40~昭和45 (1965~70)	
	日本万国博覧会	昭和45(1970)	この頃からジーンズブームとなり新規参入相次ぐ。
	オイルショック	昭和48(1973)	ビッグジョンが国産デニムを使用した純国産ジーンズ発売 井原のジーンズ生産量1,500万本に
	プラザ合意で円急騰 円高時代	昭和60(1985)	
		平成1(1989)	デザイナーズ・キャラクターブランドの学生服誕生
	バブル経済崩壊 デフレ時代に突入	平成3(1991)	
		平成8(1996)	倉敷ファッションセンターオープン
		平成10(1998)	ISO14001の認定工場誕生(繊維企業としては、全国2番目)
	平成12(2000)	この頃学生服業界で設備投資進む。 ジーンズ業界では、高額ジーンズが台頭	
	平成17(2005)	県「岡山わが社の技」認定制度実施。3年で繊維産業から15社の企業が認定を受ける。(平成16~18年度)	

第2章 岡山県の主要品目

歴史のある岡山県の繊維産業では多彩な製品が作られている。その中でも全国的に知られており、産地を代表する、学生服、ワーキング・ユニフォーム、ジーンズについて、それぞれの業界の強さを探る。

1 学生服

(1) 学生服業界を取り巻く環境

厚生労働省の人口動態統計（平成21年）の年次推移により、出生数をみると、平成2年から平成10年は概ね120万人を超えているが、平成11年から平成16年まで110万人台で推移し、以後110万人を割った状態となっている。

平成22年4月期は、高校生中心に一時的に入学生徒数が約4万人増えたため、業界全体の業績は伸びたが、平成23年には入学生徒数が平成21年水準に戻り、その後少子化による逡減傾向が続き、学生服市場は緩やかな縮小傾向にあると見込まれている。

一方、統廃合を機に新たに制服を導入する学校や、小・中・高一貫校の新設などの新規需要による、新たなビジネスチャンスも生まれている。

(2) 統計からみる岡山県の学生服製造

(i) 学校服4品目^①

平成20年工業統計調査^②によると、男女学校服4品目合計の全国シェアは、出荷額で66.2%、出荷数量で61.7%と岡山県が全国第1位である。

特に、男子学校服の全国シェアは、織物製上衣・コート類で出荷額79.4%、出荷数量78.0%、ズボンで出荷額80.7%、出荷数量76.2%とほぼ独占に近い。

女子学校服は、産出県が男子学校服より多いため、出荷額・出荷数量の全国シェアは男子学校服ほど高くないものの、岡山県が全国第1位である。〈図表1〉

アンケート調査^③の結果では、大手メーカーを含む回答企業9社のうち6社が岡山県外でも生産しており、9社合計総生産数量（平成20年国内生産）は7,669,950点であり、全国比67.5%であった。県内学生服メーカーの生産する学生服は、国内7割を占めると推測できる。

① 織物製成人男子・少年用学校服上衣・オーバーコート類、織物製成人男子・少年用ズボン、織物製成人女子・少女用学校服上衣・オーバーコート類、織物製成人女子・少女用学校服スカート・ズボンの4品目
② 本章においては特記なき限り「品目編」データを指す。順位は岡山県公表によるもの。
③ 「繊維産業PR事業アンケート」倉敷ファッションセンター(株)が実施。本章においては、学生服メーカー・ジーンズメーカー、ジーンズ洗い加工業、ワーキングユニフォームメーカーの4業種別に生産数量などを調査したもの。

(ii) 学校体育衣料

アンケート調査に回答のあった県内学生服メーカー9社のうち大手メーカー含む5社が体育衣料を生産しており、その生産数量合計は、1,043,636デカ^④であり、そのうち岡山県内生産数量が387,630デカ、県外生産数量（海外含まず）が656,006デカであった。

平成20年工業統計調査で学校体育衣料が含まれる品目は、「ニット製スポーツ上衣」、「ニット製スポーツ用ズボン・スカート」であり、どちらの品目も岡山県の出荷額は福井県に次いで2位であり、岡山県の出荷数量は合計745,049デカで、20%を超える全国シェアとなっている。出荷数量と生産数量の違いはあるが、今回のアンケートから、県内で出荷されているニット製スポーツ衣料の多くが学校向けであることがうかがえた。

(iii) 織物製スクールシャツ

織物製スクールシャツについては、アンケート調査に回答のあった企業8社の県内生産数量は182,469ダース、県外生産数量（海外含まず）が213,500ダースであった。

平成20年工業統計調査で織物製スクールシャツが含まれる品目は「織物製ワイシャツ」であり、その出荷額は42億83百万円で、全国シェアは26.1%で、全国第1位となっている。出荷数量においても295,197ダースと全国の36%を占める。

前述の体育衣料同様、出荷数量と生産数量の違いはあるが、県内で出荷される織物製ワイシャツの多くが学校向けであることがうかがえた。

(3) 岡山県の学生服業界

岡山県内の学生服メーカーは、昭和初期から現在まで高い全国シェアを維持しており、特に男子学生服は独占に近い。また、学生服のほか、体育衣料やスクールシャツも多く生産している。

学生服業界は、一般衣料業界と違い、売り先が学校・学生に限定され、マーケットが見えていないため、そこに集中的に経営資源を投入し、マーケットインの発想で経営システムを構築でき、後発の新規参入が難しい業界と言われている。そうした中で、岡山県内の学生服メーカーは、学生服が誕生して間もない頃から現在に至る歴史の中で学生服づくりのノウハウを蓄積し、品質、生産体制面などにおいて、次のような学生服独特のビジネスモデルを確立している。

●長期着用に耐える品質の追求

岡山県内メーカーの学生服は、活動的世代の学生が、3年間ほぼ毎日着用することを意識し、染色堅牢度、摩擦堅牢度、ピリング（毛玉）などの性能試験に合格した最高レベルの素材を使い、袖つけなど破れに強い嚴重な縫製にしている。

④ 1デカ=製品10点。製品数量の単位。

●国内自社工場中心の生産体制

学生服は採寸から納品までの期間が短く、納期が3月と4月に集中する。また、1980年代後半から、ブレザー型制服・学校別のオリジナル制服や素材をカラー化した別注型詰襟を採用する学校が増加してきた。このため、従来の黒詰襟学生服の量産体制は崩れ、多品種小ロット型生産体制へ変化した。こうした変化により、学生服メーカーは、備蓄生産、新規物件の生産、納期前の緊急生産などを総合的に組み合わせた生産・在庫・物流システムの再構築による効率化を求められることとなった。



ブレザー型学校服

そこで、岡山県の学生服業界は2000年代に入り、岡山県内外に最新鋭設備を導入した工場を建設し、素材手配から納品までを効率的に進める生産体制を強化した。

アンケート回答企業9社のうち8社が自社工場比率50%以上（数量ベース）であり、6社が海外生産比率20%以下である。我が国の衣料品輸入浸透率（数量ベース）が90%を超える中、学生服業界は自社工場のウェイトが高い国内生産中心となっているのが特徴である。

また、この業界は、自社ブランドで企画生産販売するメーカーと、下請け工場として生産を支援する縫製工場との協力関係が形成されており、需要の変動に応じた生産量の調整や、小ロット多品種短納期に対応できている。

学生服業界は、入学者数、納期がほぼ決まっており、情報処理管理しやすい業界と言われる。しかしながら、多品種小ロット、年1回の納期、入学者の男女比の予想とのズレや、採寸から入学までの短期間でのイレギュラーサイズの生産対応、年間通じての工場の安定操業、備蓄のための在庫力・資金力などクリアしなければならない課題は多く、新規参入は難しい業界である。

●学校支援、CSR（企業の社会的責任）活動への積極的な取り組み

- 各学校での制服着こなしセミナー実施
- 中学校・高等学校体育連盟の支援
- プライバシーマーク取得
- 奨学金給付
- スポーツ教室の開催
- 絵画コンクール
- ユニセフ支援
- 地域安全マップコンテストの実施等

以上のようなビジネスモデルに加え、岡山県学生服メーカーは、全国の支店、営業所等による強固な販売体制が確立されているため、今後も高いシェアを維持していくことが予想される。

2 ワーキング・ユニフォーム

(1) ワーキング・ユニフォーム業界を取り巻く環境

製造業の海外移転に伴う国内生産空洞化、公共工事の減少に伴う建設業の不振などによる就業人口の減少、パート・アルバイト、派遣・契約社員などの増加といった雇用形態の変化、更新需要の長期化などの影響を受け、ワーキング・ユニフォームの市場規模は、縮小傾向にある。

しかしながら、総務省労働力調査による職業別就業者の推移をみると、生産工程・労務作業者は、大幅に減っているが、保安職業・サービス職業従事者などは増えている（図表2）。また、産業別の推移では、医療・福祉、宿泊・飲食サービス業、運輸・郵便事業などで就業者が増えており（図表3）、こうした市場の変化にどう対応するかがワーキング・ユニフォーム業界の課題となっている。

(2) 岡山県のユニフォーム業界

ワーキング・ユニフォームは、学生服、ジーンズと並ぶ岡山県の主要生産品目となっている。平成20年工業統計調査からユニフォーム関連品目をみると、「織物製事務用・作業用・衛生用衣服」の岡山県出荷額は336億42百万円（全国シェア34.2%）で1位であり、岡山県内産出事業所数は65事業所と他品目に比べて多く、過去10年間の出荷額推移をみると市場縮小傾向の中で、岡山県のシェアは高くなっていることが注目される。（図表4）また、警察などの官公需ユニフォームの出荷額・出荷数量も岡山県は上位に入っている。

こうしたことからワーキング・ユニフォーム市場が縮小傾向にある中で、岡山県のワーキング・ユニフォーム業界は、比較的安定しており、健闘している企業が多いと言える。

(3) まとめ

岡山県のワーキング・ユニフォーム業界には、総花的な製品づくりをする大規模な総合メーカーは存在しないが、産業構造の変化や業種別就業者数の動向をみながら、用途別、業種別に製品分野を絞り込むとともに、カジュアルタイプの開発など、産地の特性を生かした特徴ある製品開発を進め、小回りを利かせながら独自性を発揮し、健闘している企業が多い。

アンケートの回答によると、介護施設向けユニフォーム、カジュアルワーキング、サービス向けワーキング・ユニフォーム分野への将来的な期待が高く、また、レディススーツ（女子ユニフォーム）、男女ベアユニフォーム、ソフトワーキングウェア（サービス産業向けユニフォーム）、介護施設向けユニフォームが好調な製品分野として挙げられており、岡山県のワーキング・ユニフォーム業界は市場動向を先取りしながら業種別、職種別に様々なものを生産している。それぞれの特徴、傾向は次のようなものである。

●ワーキングウェア（作業服）

ワーキングウェア市場は、生産・労務作業従事者が大きく減少しているが、依然として1,600万人（総務省労働力調査）を超える大規模市場である。しかしながら、価格競争が厳しいため、海外生産比率が80%を超えるメーカーが多い。

そうした中、岡山県内のメーカーは、日本の素材を海外で縫製する加工貿易で、質の高いデザイナーズブランドのワーキングウェアを製造販売している企業や、カジュアルテイストのデザインにワーキングの機能性を取り入れた綿素材のカジュアルワーキングを強化している企業など、薄利多売を避けた付加価値のあるモノづくりを進めている。

特に、綿素材で洗い加工したカジュアルワーキングは、洗い加工業の集積した産地ならではの製品と言える。

●^{とび}鳶服

鳶服（ニッカポッカ等）のニッチ市場で高いシェアを確保している企業は、ワークショップでブランドの知名度を上げ、指名買いに結び付けている。さらに、ブランドの知名度を活用して、普通ワーキングや安全靴、インナーなど関連商品に幅を広げ、成果を上げている。

また、こだわりを持つ鳶職人に的を絞り、和柄など個性的な鳶服を提案している企業もある。



鳶服

●女子ユニフォーム

業界団体のレディースユニフォーム協議会に加盟している岡山県内の女子ユニフォーム企業は4社あり、その合計売上高は東京に次ぐ。動きやすくシルエットの美しいスカートや、抗菌・消臭・防汚加工などのハイテク素材の快適性を追及したスーツなど、高機能素材の洗練されたオフィスユニフォームの提案には定評がある。各社とも国内生産比率が高く、クイックレスポンス、売れ筋フォロー、別注対応などに優位性を発揮している。



女子ユニフォーム

●ニットユニフォーム

ポロシャツなどのニットユニフォームに特化して特徴を出した企業がある。編み立ては中国で行い、備蓄してフォロー。運送業などに採用されている。

●介護施設向けユニフォーム

大手学生服メーカーが、ニット製学校体育衣料の生産ノウハウを活用し、ユニフォームとしての機能性、厳しい縫製仕様、工業洗濯・高温乾燥に耐えられるなどの品質を確保しながら、しっかりとした商品フォロー体制を組んでおり、高い市場占有率を確保している。介護ユニフォームは、ジャージの上下が多いが、最近はポロシャツ、エプロン、チノパンなどアイテムが広がっている。市場は拡大傾向にあり、新規参入企業が増えている。大手メーカーの話では国内市場規模は、約100億円で、岡山県内メーカーのシェアは約50%とも言われている。



介護ユニフォーム

●ソフトワーキングウェア・男女ペアユニフォーム

ソフトワーキングウェアは、花屋、カフェ、美容室、ペットショップ向けなどを意識したサービス業向けユニフォームである。

男女ペアユニフォームは、男女雇用機会均等法などによる女性雇用労働者の増加や産業構造の変化により、ワーキングウェアのユーザーのすそ野が広がっていることから、ビルのメンテナンス、配送業などの職種で需要拡大が期待されている。



ソフトワーキングウェア

その他にも飲食サービス業向け和風ユニフォームなど、岡山県から生み出されるユニフォームは多彩である。

また、警察などの官公需制服や物流・運輸業、警備などに職種を絞り込み、国内生産基盤を活用することにより、別注に積極的に対応することで安定した業績を確保している企業もある。

岡山県のワーキング・ユニフォーム業界は、それぞれ独自の切り口で、多彩なユニフォームを製造する個性あるメーカーが集積しており、産地の活性化につながっている。岡山県は学生服を含め制服なら何でも揃う一大産地となっている。

3 ジーンズ・デニム

(1) ジーンズ市場と産地岡山県の位置付け

日本ジーンズ協議会の調査によると、平成21年1月～12月の全国ジーンズ製品総生産（仕入れ）数量（海外生産含む）は、6,020万着（前年比8.5%減）で過去10年の推移からみても厳しい数字であった。その原因としては、成人男女のブルージーンズの不振、消費者の買い控えのほか、ニット製レギンスの隆盛が続き、トレンドがジーンズに逆風であったことなどが挙げられている。（図表5）

アンケート等で回答を得た県内ジーンズ製造業18社のジーンズ製品生産数量（海外生産含む）合計は、1,208万着（平成21年1月～12月）であり、これを日本ジーンズ協議会調査の全国生産数量と比較した場合、岡山県のジーンズ生産数量の全国シェアは、独占的に高いものではない。

岡山県のジーンズ産地としての特徴は、単に生産量の多い産地というものではなく、児島・井原地域を中心に染色、生地から縫製、洗い加工、仕上げまでのジーンズ関連企業が集積し、ジーンズ一貫生産のインフラがそろっている点にある。

このため、ジーンズ業界における産地「岡山県」の位置付けは、生産量ではなく、素材、染め、洗い加工で独自性、こだわりを追求する国産ジーンズ一貫生産地であり、海外では生産できない、世界をリードする高付加価値ジーンズの産地であると言える。

(2) 岡山県のジーンズ業界

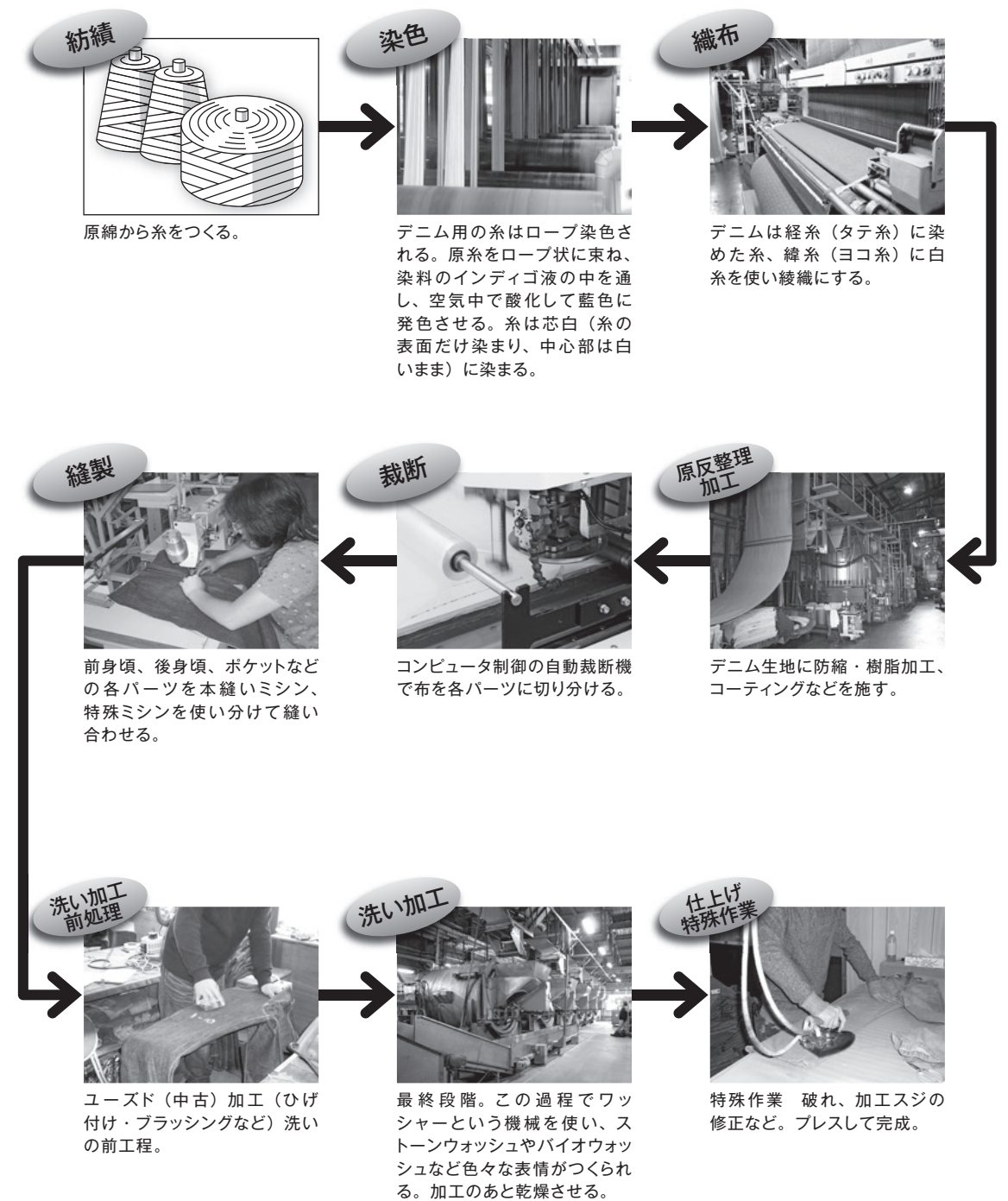
岡山県ジーンズ業界は、量ではなく、生地、デザイン、染め・洗い加工などで独自性、こだわりを追求した小ロット対応個性派メーカーの時代に移ってきている。ベーシックな大量生産ジーンズは海外生産に移ったが、一方で、産地のモノづくり機能や自社の企画力などの強みを生かして、OEM（相手先ブランドによる生産）やODM（相手先ブランドによる設計・生産）対応する企業も増加している。

岡山県ジーンズ業界の強みとして、次のようなことが挙げられる。

●生産業種が揃ったジーンズの生産工程

ジーンズは一般的に次のような生産工程を経て製造される。

このような生産工程のうち、紡績を除く工程は岡山県にすべてそろっている。このほかにもカラージーンズ用白生地の原反染めなど、それぞれ分業体制ができており、またファスナー、縫い糸、ボタンなどの付属類の供給体制も整っている。こうした産地背景は、新商品開発に有利に機能すると同時に、一定の経験を積んでジーンズビジネスを志す人にとっては、起業しやすい環境が出来上がっていると言える。



●経験と技術が集積

岡山県にジーンズが誕生して40数年が経過し、染色から裁断、縫製、洗い加工までジーンズに関する多くのノウハウが蓄積され、豊富な経験と知識を有し、高い技術を持つ人材が育っている。そうした人材の技術を組み合わせ、ファッションに結び付けることができれば、他では真似の出来ない製品を生み出すことができる。それだけの人的、技術的背景が岡山産地にはある。

例えば、オーダーメイドジーンズの製造では、職人による手裁断や10種類のミシンを使い分ける縫製技術、洗い加工による縮み・風合いの変化を考慮したデザインなど、経験と技術を集積した岡山でしかできない製品づくりを実現している。

●若手層の新規参入が多い

平成12年頃から高額ジーンズが台頭してくると同時に、若い人材のジーンズ業界への参入が増え、若手層が中心となって新しいジーンズアパレルが生まれてきた。こうした若手層の新規参入は、「児島ジーンズストリート」や「デニム研究所^⑤」への出店企業の中や、プリント業、ジーンズカジュアル販売店などの異業種から自社ブランドを立ち上げた企業などの中に見受けられる。

●全国的、世界的にジーンズの町として知名度が高い

岡山県のジーンズは、児島が「国産ジーンズ発祥の地」、井原が「ジーンズのふるさと」としてマスコミに取り上げられることが多く、知名度が上昇している。

さらに、近年、県内ジーンズメーカーは、欧米の有名ショップなどへの販売を伸ばし、海外市場でも評価を高めており、世界的に知られるようになった。

(3) 岡山県のデニム（デニム生地）

岡山県産のデニムは、井原市で多く生産されている。同市に本拠を置く備中織物構造改善工業組合の組合員21社のうち17社が、超長綿など素材にこだわった4オンスから21オンスデニムを幅広く生産している。小ロット多品種化の市場を反映して、一反から対応する企業も少なくない。

また、織りだけではなく、希少なロープ染色の技術を有している企業や、整理加工の設備を有している企業があり、開発、提案力を発揮している。

海外の展示会に積極的に出展するなど、海外市場への売り込みにも力を注ぎ、輸出比率が30～50%を占める企業もある。

⑤ 児島デニム協同組合が大阪に出店したショップ

(4) 岡山県のジーンズ染め・洗い加工

染め・洗い加工は、ジーンズのフィニッシュ工程であり、製品の差別化、高付加価値を決める大きい要素の一つである。スタイル、デザインも重要だが、最後の加工で製品の良し悪しが決まり、海外市場においては、洗い加工が評価のポイントになることが多いと言われている。

岡山県に集積しているジーンズ染め・洗い加工企業の得意な加工技術を調査したところ、ユーズド加工全般、立体ヒゲ加工（ヴィンテージ加工）、エコ加工技術、特殊染め加工、レーザー加工技術、特殊ストーンワッシャー、繊維製品の染色、セルロース繊維の表面染色など多種多様で、各企業の技術力がジーンズに様々な表情をつけていると言える。

さらに、リメイクジーンズ、ダメージなどの新しい加工技術は児島地域からの発信が多く、技術レベルは世界トップクラスであり、その高い技術力が産地の強みの一つになっている。今後とも感性と技術が結び付いた、世界をリードする、新しい加工技術の開発が期待されている。



ユーズド加工ジーンズ

第3章 岡山県繊維産業の特徴・優位性

1 総論

平成20年工業統計調査の繊維工業品目編をみると、100種類を超える品目が岡山県で生産されている。合繊・綿糸から各種織物、フェルト・不織布、ロープ、漁網、組紐、畳縁、背広服、男女制服、婦人服、学生服、ワーキング・ユニフォーム、ジーンズ、ニット製品、スポーツ衣料、下着、寝着など。さらに足袋、ネクタイ、ソックス、手袋、帽子、寝具のほか、帆布製品、繊維製袋の製造事業所も多い。

このように、岡山県繊維産業は、細紐や足袋、帆布のような江戸・明治時代から続く伝統的なものから、ファッションの最先端をいくジーンズカジュアルまで様々な業種の企業で成り立っており、異業種企業の協業や、同業種企業が競合関係を保ちながら刺激しあうことで同質化が避けられ、市場に対して広範な提案、発信ができる可能性を秘めている。

2 岡山県の繊維産業は製品型

平成20年工業統計調査によると岡山県には、外衣・シャツ製造業が382事業所、下着・その他の衣類・身の回り品製造業が159事業所あり、衣類などの繊維製品を製造している事業所数は合計541事業所で、繊維工業全体の事業所数の76.8%を占める。従業員数は11,038人で、繊維工業全体の67.9%を占め、衣類などの製造事業所が化学繊維、織物、染色などの業種より従業員数も多い。

また、平成19年工業統計調査によれば、岡山県の衣服その他の繊維製品の出荷額は、繊維工業品の出荷額の約2倍であり、合計出荷額上位10県と比較すると、衣類などの製品のウエートが高い^①。〈図表6〉

こうした統計数値からも、岡山県繊維産業は、アパレルなどの製品型産地を形成しているのが特徴であることが分かる。特に、アパレル製品の中では学生服、ワーキング・ユニフォームなどの制服関係は、我が国を代表する産地を形成している。さらに、ジーンズの生産地としても国内はもとより、世界的に知られている。

アパレル製品は、生地などの中間財とは異なり消費者に商品として販売されるものであり、ファッション、市場動向に直接影響される。ジーンズは流行の変化が激しく、学

① 平成20年調査から衣服・その他の繊維製品製造業は繊維工業として一つに統合されたため、平成19年調査のデータを使用。

生服、ユニフォームも学生数、産業構造の変化に大きく影響を受ける製品であるため、マーケットの情報をいち早く入手し、市場の変化に機敏に対応することがアパレル企業にとって重要である。各アパレル企業が、今後とも、そうした市場動向の変化を先取りし、外部環境へ対応することで、岡山県の繊維産業はより発展していく可能性がある。

3 生産背景に強み

生産拠点に関するアンケートの回答結果をみると、約7割が「海外生産なし」と回答している。さらに、岡山県内のみで生産している企業は、全体の44%を占めている。こうしたことから岡山県の繊維産業は、国内生産のウエートが高いということがうかがえる〈アンケート問11〉。なお、価格競争の厳しい定番ワーキングウェアや量産ジーンズなどは、海外生産が主力になっている。

現在地に立地しているメリットについては、「周辺業種がそろっている」が26%、次いで「産地内連携をしやすい」(17%)、「適切な分業体制ができている」(12%)、「情報を入手しやすい」(11%)となっている〈アンケート問7〉。こうしたメリットを生かした事例としては、下記のようなことが挙げられる。

- 染色から、織布、縫製、洗い加工までの各業種が集積している強みを生かし、高い技術力を持つ産地の関連企業と連携し、海外では生産できない高付加価値ジーンズを小ロットで企画・製造している国内生産100%の企業。同社はヨーロッパへジーンズを輸出している。
- ジーンズの一貫生産ができる産地背景を活用し、マーケットと産地を結び付けるコーディネーターとしてのジーンズカジュアルビジネスを成功させた企業。同社は技術力のある産地企業を組織し、アパレルメーカー、ショップからの別注商品を受注し、パターン作成から納品まで対応している。
- 生産を中国に移す傾向が強い中、一貫して国内生産に軸足を置いているジーンズ洗い加工の企業。同社は将来、メイド・イン・ジャパンのジーンズを世界へ本格的に輸出する時に備えて国内生産基盤を維持しておくことを考えている。今売れているもの・売れるものが小ロットで今すぐ欲しいという産地内企業等からの要望への対応に、国内生産の利点が発揮されている。
- 染色業界は、天然素材・合繊の表地、裏地の染色から、原反仕上げ加工までの幅広い小ロット対応か、または得意分野に特化した対応により、産地での役割を果たしている。ユニフォーム用などのポリエステル・綿混紡生地の染色に特化したことでフル稼働の企業もある。

●学生服業界は国内生産基盤がなければ、新入学時期に集中する納期に対応することが難しく、自社工場に加え、県内中心に、関係会社、協力工場の生産チームを形成することにより、多品種小ロット、短納期生産に対応している。

4 環境対策

岡山県繊維業界は学生服、ユニフォーム業界を中心に、早くから環境対策に取り組んでいる。アンケートの回答では、環境への配慮のために実施していることは、多いものから順に「省エネルギー社内活動の実施」、「リサイクル素材の活用」、「環境配慮型製品の開発・強化」、「マテリアル・ケミカル・リサイクルシステムの導入」などとなっている。〈アンケート問5〉

県内の多くの繊維企業は、環境管理の国際規格ISO14001の認証を取得し、省エネルギーなどの環境意識を高める活動を継続している。ISO14001については、倉敷市児島のジーンズ洗い加工企業の県内工場が、平成10年（1998）に繊維企業としては日本で2番目に、また、学生服、ユニフォームメーカーが平成12年（2000）頃に多く取得するなど、比較的早い時期に認証を取得している。

また、環境負荷の小さいものを優先的に購入する「グリーン購入ネットワーク」への加入、リデュース・リユース・リサイクルの3R活動の推進、段ボール箱の無地化の他、包装紙・箱・販促物などに古紙、非木材紙を使用するなど各社様々な取り組みを行っている。

学生服、ユニフォーム業界では、早くからペットボトルからのリサイクル素材の導入を進めており、広く製品に採用している。このほか、使用済み学生服の玄関マットへの再製品化や、使い古したユニフォームを回収し、再生繊維の原料や熱源として再利用するマテリアル・ケミカル・サーマルリサイクルシステムを構築している企業も多い。

最近では、二酸化炭素排出権付き等のカーボンオフセット製品を販売する企業も増えているほか、カーボンフットプリント^②の導入や、広域認定制度^③の許可を受けて独自の回収リサイクルシステムを稼働させたり、政府が進める二酸化炭素排出量を25%減らす「チャレンジ25キャンペーン」に登録する企業もある。

ジーンズアパレルでは、デニムの裁断くずを紙に加工したり、残布を活用したバッグ、小銭入れなどの製品開発により廃棄物の削減を進めており、ジーンズ洗い加工・染色企

② 「炭素の足跡」の意味。製品の製造から廃棄までに発生する温室効果ガスをCO2量に換算し、企業が自社の製品に表示する制度。
③ 産業廃棄物の処理能力が高度な水準に達している場合環境大臣から受けることができる認定。これにより県外など自治体を超えて広域に廃棄物を処理することができる。

業では、化学薬品の環境への悪影響の予防処置や、水質汚濁物質の排出量削減など、環境負荷の低い加工法の開発を進めている。

5 海外で高い評価

岡山県内繊維企業の中には、優れた技術が海外で高い評価を受け、海外市場での取引を確立している企業もある。特に、織物業界はアパレル生産拠点の海外移転に伴う国内需要の減少から、積極的に海外への売り込みに取り組んでいる。

井原市のデニムメーカーは、国際競争力向上のため、オーガニックコットンや超長綿使いなどの高品質デニムの製造に重点を置き、その販路を海外に求め、10年程前からパリ、ニューヨーク、ロサンゼルスなどの展示会に継続的に出展してきた。その結果、欧米の有名ブランド、デザイナーに製品を採用される企業や、輸出比率が50%近くに伸びた企業など、海外市場での売り込みの成功事例が生まれている。こうした企業はそろって「岡山県のデニムは世界で通用する」と自信を見せる。

倉敷市児島にも、少量でもコンスタントに販売を続け、関係を深めていくことを重視しながら世界20カ国へデニムを輸出し、製品の良さを世界が認めている企業や、平成21年（2009）9月にパリで開催された世界最高峰の国際服地見本市「プルミエール・ヴィジョン」で「ハンドル（風合）賞」を受賞した世界トップレベルの技術力を持ち、イタリアなどヨーロッパを中心に輸出している企業がある。

ジーンズアパレル製品の輸出は、まだ数量、金額は少ないが、着実に実績を積みつつある。現在の輸出先は、主に欧米、香港であるが、欧米での販売実績をもとに、将来的には巨大マーケットである中国への輸出を視野に入れている。

第4章 繊維産業振興に向けた取り組み

本章では岡山県内で、産地としての振興、伝承を目的に、企業や業界団体等の取り組み事例を紹介している。

児島ジーンズストリート

児島ジーンズストリート推進協議会
倉敷市児島駅前（児島商工会議所内）
086-472-4450



国産ジーンズ発祥の地として知られる倉敷市児島を訪れる人は増えていますが、「せっかく来たのに、ジーンズを買うところが分からない」という観光客の声が多くあり、それに応えるため、児島商工会議所、地元メーカーが中心となって、平成21年11月に児島ジーンズストリート推進協議会(会長真鍋寿男コレクト社長)を設立し、「児島ジーンズストリート」を誕生させました。

場所は、旧野崎家住宅（国の重要文化財）前から味野第二公園までの約400メートルの、古い商店が立ち並びレトロな雰囲気が漂う味野商店街です。

出店している主なショップは次のとおりです。

『桃太郎ジーンズ味野本店』は、本藍染めの手織りジーンズを中心にした品揃え。また、同店内の手織り工場「鶴の工房」では、独自開発の手織り機でデニム生地が織られています。

『ダニアジャパン』直営ショップは、日本古来の美がテーマの「ぬきえもん」と「ダニア」ブランドのオリジナルジーンズを、『サイオー』は、デニム、チノのデザインパンツを販売しています。『ムーサン』は、カフェとデニム小物のショップ。『ピュアブルージャパン』は、正藍屋の直営ショップで、デニムのほかシャツ・カットソーを充実。また、クラクションの直営ショップ『倉敷天領デニム』は、メイドイン岡山・倉敷ジーンズをアピールしています。



ジーンズカジュアルショップ「サイオー」

カフェとデニム小物の「ムーサン」

「ピュアブルージャパン」

「倉敷天領デニム」

ジーンズミュージアムに年間3万人が来場

ジーンズ製造 株式会社ベティスミス
倉敷市児島下の町
086-473-4460



ジーンズミュージアム外観

「国産ジーンズ発祥の地」と言われる倉敷市児島の「ジーンズミュージアム」は、(株)ベティスミスが本社に隣接して平成15年に開設したジーンズ資料館です。木のぬくもりのある木造2階建てで、中に入ると、ジーンズの歴史が実感できます。現在、年間3万人が訪れています。

1階がジーンズの歴史と、ジーンズができるまでをテーマにしたフロア。過去のそれぞれの時代のジーンズやアメリカの中古ジーンズ、古いミシン、ポスターなど珍しい資料を展示。また、ストーンウォッシュ用の石や、デニム生地のもとになる原綿、多種類のボタンなどを並べ、ジーンズの生産工程を紹介しています。2階には、同社の歴史、オーダージーンズの受付コーナーを設けています。

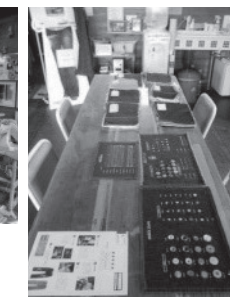
入館無料。開館時間午前10時～午後5時。年末年始休館。

同社敷地内に、直営アウトレットショップ、体験工場も併設しています。

体験工場では手持ちのジーンズを独自にプリントしたり、ヒゲ付けするなど、加工作業を実際に楽しみながら、自分だけのオリジナルジーンズにリメイクすることができます。



ミュージアム1階



オーダージーンズ用のリベットやボタンのサンプル



体験工場

組合直営ジーンズショップ 「D# The Store」出店

井原被服協同組合

井原市七日市町（井原鉄道井原駅構内）

090-3740-5806（D# The Store）



井原市の縫製企業で組織する井原被服協同組合は、平成22年6月、同市七日市町の井原線井原駅構内に、組合直営ジーンズショップ「D# The Store」（ディー・シャープ・ザ・ストア）をオープンしました。店舗面積は45平方メートル。

井原産のデニム生地を井原で縫製・加工したジーンズ、シャツ、ジャケット、小物など、組合員各社の商品を品揃えし、井原のジーンズをPRしています。

価格はジーンズで6千円から2万円までで、メーカー直売のため市価の半額近い商品も。また、井原産高品質デニムのオーダーメイドジーンズも販売しており、価格は3万円から。

営業時間は午前9時30分～午後6時30分。毎週月曜（祝日の場合は翌日）休業。

井原市はもともと藍染織物の産地で、昭和35年頃からデニム地の生産が行われており、現在、井原産のデニムは欧米中心に多く輸出され、世界で高い評価を得ています。

また昭和30年代初めには、アメリカ進駐軍の払下げジーンズを縫い直してアメ横などで販売し、縫製業も発展しました。現在、井原市は「ジーンズのふるさと」と言われています。



店舗看板



高級素材も求めやすい価格で



店内の様子
オーダージーンズにも対応

倉敷ファッション フロンティア

倉敷ファッションフロンティア実行委員会

倉敷市児島駅前

（倉敷ファッションセンター株式会社内）

086-474-6800



満員の観客で
盛り上がった
最終審査のショー



本県や倉敷市、倉敷ファッションセンター（株）などで構成される、倉敷ファッションフロンティア実行委員会は、岡山県繊維産業振興策の一環として、毎年ファッションデザインコンテストを実施しています。

ユニフォームとジーンズ&カジュアルの2部門を対象に、商品化可能な新商品開発のためのデザインを全国から募集。デザイン画による第一次審査で、各部門7点と企業賞を入選作品として選定し、最終審査会では、入選者が制作した作品をショー形式で審査します。

同コンテストは、平成8年から行われており、毎回全国から多数の応募があります。

せんい児島 瀬戸大橋まつり

せんい児島瀬戸大橋まつり振興会

倉敷市児島駅前（児島商工会議所内）

086-472-4450



関西、四国からも
来場



地元繊維メーカーの販売コーナー

日本有数の繊維産業集積地、倉敷市児島で、毎年春と秋の年2回、繊維大即売会「せんい児島瀬戸大橋まつり」が開催されています。

毎回、会場には、地元繊維メーカーなどの200張りを超える即売テントが集合。ジーンズや作業服などが格安で販売され、大勢の人でにぎわいます。関西、四国からの来場者も多く、岡山県で集客数の多いイベントの一つに数えられています。昭和30年に第一回が開催され、「児島繊維祭」、「せんい児島まつり」と名前を変えながら今日まで続いています。

トンボ歴史資料館(八正館) トンボ・ユニフォーム ミュージアム

株式会社トンボ玉野本社工場内
玉野市八浜町
0863-51-1515



学生服メーカー、(株)トンボの玉野本社工場敷地内にある「トンボ歴史資料館(八正館)」は、創業130年を超える同社の歴史を、創業時からのミシン、工具、設備、販促ポスターの他、足袋、小倉織・霜降り学生服などの展示物で紹介しています。

また「八正館」と同じ敷地内の「ユニフォーム開発センター」には、同社120周年記念事業で開設された「トンボ・ユニフォームミュージアム」があります。これは日本・世界のユニフォームを収蔵する制服博物館で、制服のルーツ、学ぶスタイルの変遷、英国の学校制服などのコーナーがあり、ユニフォームの歴史を学ぶことができます。

なお両施設とも事前に予約すれば、一般人(同業者を除く)も見学できます。

児島学生服資料館

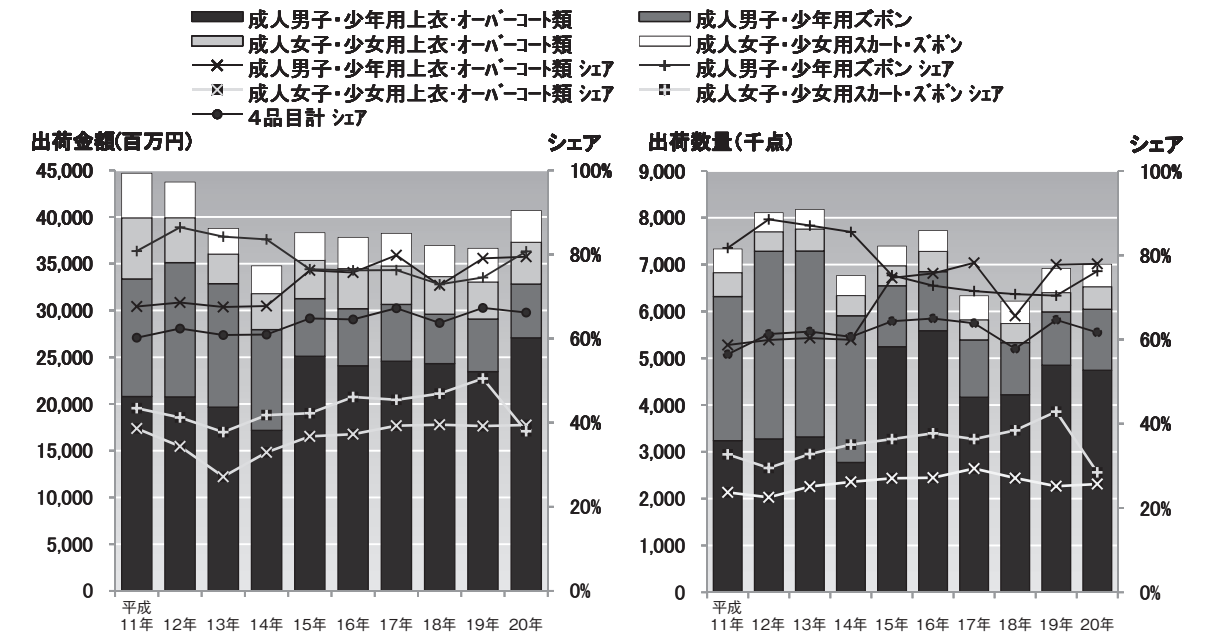
日本被服株式会社
倉敷市児島下の町
086-473-2111



学生服メーカー日本被服(株)は、本社敷地内の原反倉庫(木造2階建て260平方メートル)を改装し、児島学生服産業の歩みを紹介する「児島学生服資料館」を平成22年11月にオープンしました。1階には、高度成長期の昭和40年頃の工場写真、古いミシン、懐かしいホーロー看板のほか、戦前の霜降り、雲斎織の学生服などを展示しています。また、2階には、来館者がセーラー服を着て記念写真を撮って楽しむことができるコーナーを設けています。今後も自社に限らず他社の資料も幅広く収集し、展示紹介していく予定です。

入館無料。開館時間午前10時～午後5時。日曜日休館。

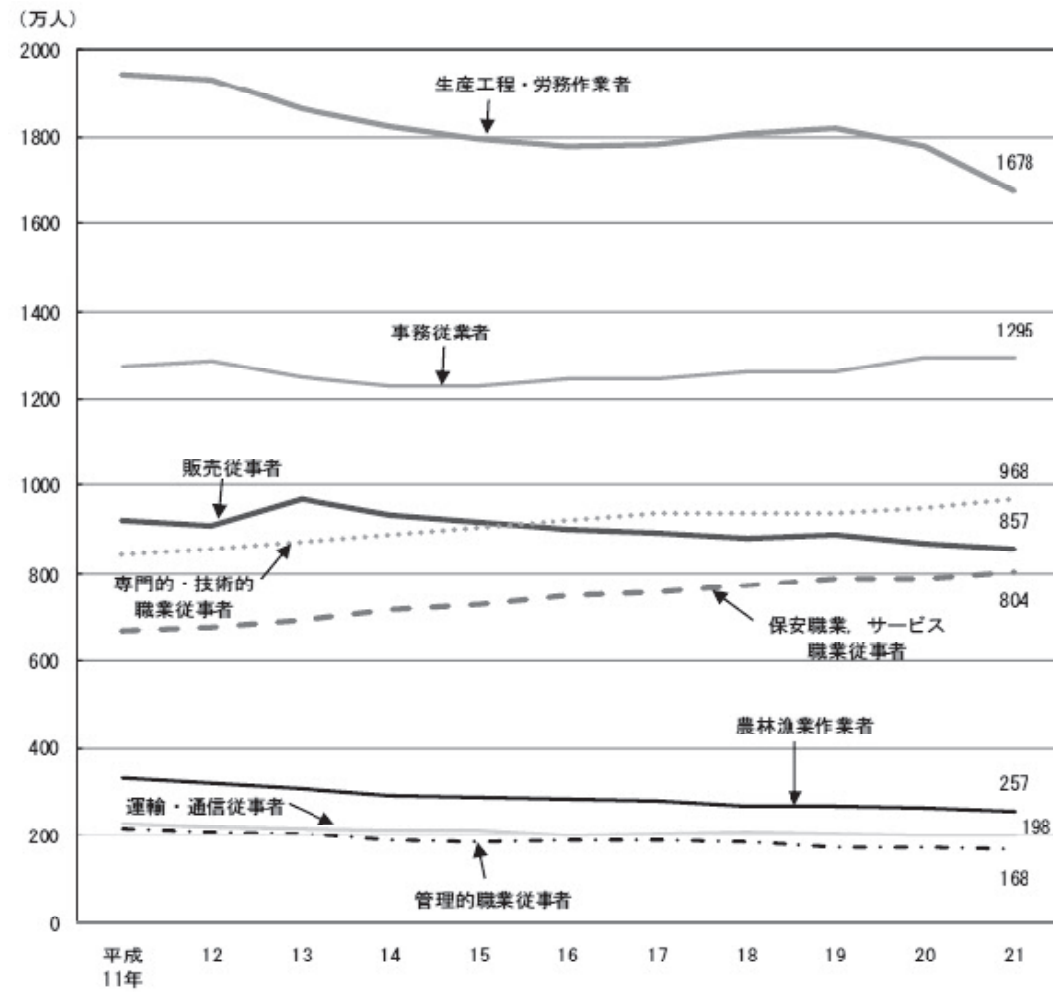
〈図表1〉岡山県の織物製学校服出荷金額・数量及び全国シェアの推移



織物製学校服 (下段は全国シェア)											
出荷金額(百万円)		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
・成人男子・少年用	上衣・オーバーコート類	20,801	20,760	19,661	17,181	25,106	24,093	24,573	24,320	23,466	27,076
	ズボン	12,580	14,364	13,213	10,775	6,164	6,103	6,079	5,282	5,623	5,756
4品目計		44,683	43,745	38,784	34,783	38,324	37,832	38,259	36,955	36,655	40,699
出荷数量(点)		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
・成人男子・少年用	上衣・オーバーコート類	3,239,320	3,275,951	3,318,727	2,773,501	5,246,715	5,588,580	4,167,414	4,220,166	4,850,595	4,744,260
	ズボン	3,079,171	4,009,461	3,971,233	3,133,575	1,301,960	1,260,741	1,223,929	1,113,313	1,139,560	1,301,345
4品目計		7,335,433	8,109,635	8,179,678	6,766,593	7,396,052	7,728,382	6,335,653	6,221,012	6,918,959	7,010,228

平成11年～平成20年工業統計「品目編」データ (従業者4人以上の事業所)

〈図表2〉職業別就業者の推移

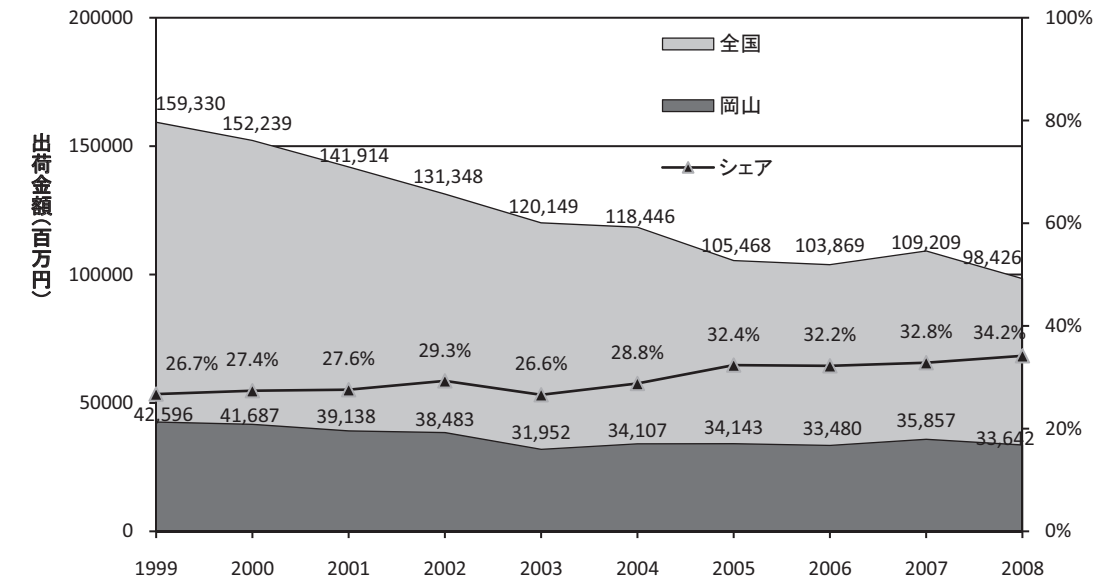


〈図表3〉産業別就業者の推移

		(万人)																								
		農業、林業	非農林業	建設業	製造業	情報通信業	郵便業	運輸業	小売業	卸売業	金融業	物品賃貸業	不動産業	技術サービス業	学術研究・専門・技術サービス業	飲食サービス業	宿泊業、娯楽業	生活関連サービス業	学習支援業	教育、福祉	医療、福祉	複合サービス事業	分類されないもの	サービス業(他に)	うち職業紹介・労働者派遣業	公務
実数	H19	251	6161	552	1165	192	330	1077	155	113	198	380	233	279	579	71	478	118	227							
	H20	245	6140	537	1144	189	342	1067	164	111	200	373	236	283	598	56	485	120	223							
	H21	242	6040	517	1073	193	348	1055	165	110	195	380	241	287	621	52	463	101	222							
対前年増減	H20	-6	-21	-15	-21	-3	12	-10	9	-2	2	-7	3	4	19	-15	7	2	-4							
	H21	-3	-100	-20	-71	4	6	-12	1	-1	-5	7	5	4	23	-4	-22	-19	-1							

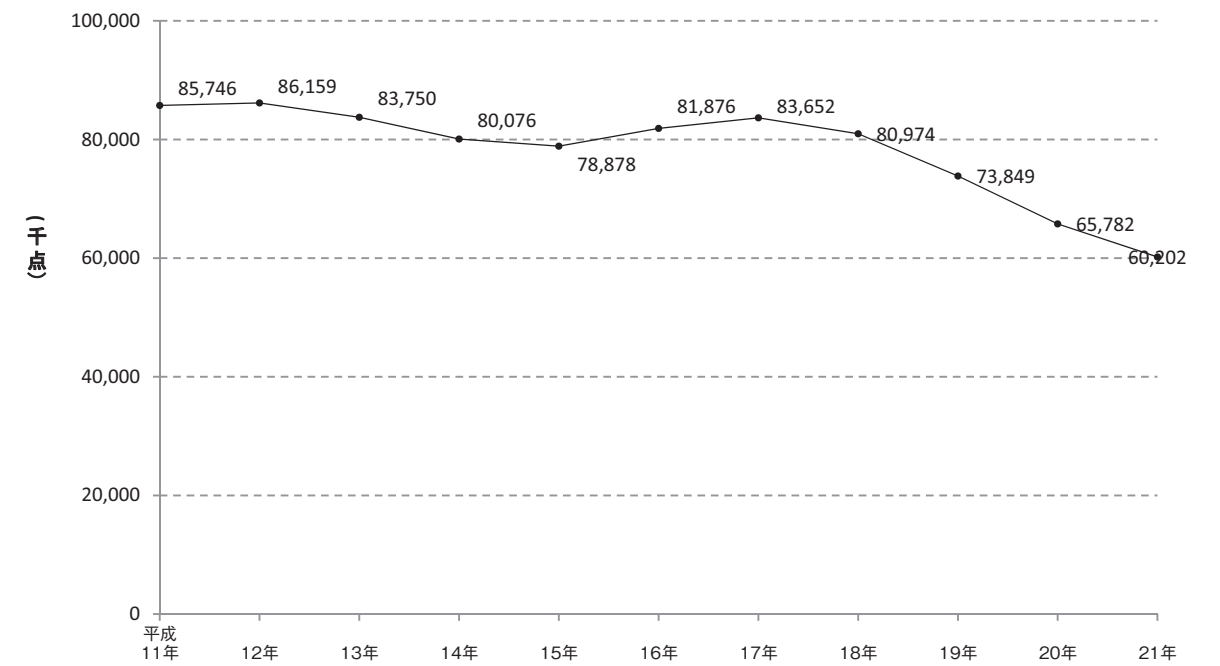
(図表2、図表3)平成21年 総務省労働力調査年報 I 基本集計

〈図表4〉織物製事務用・作業用・衛生用衣服の出荷金額推移



平成11年～平成20年工業統計表「品目編」データ(従業者4人以上の事業所)

〈図表5〉全国ジーンズ製品生産(仕入)の推移



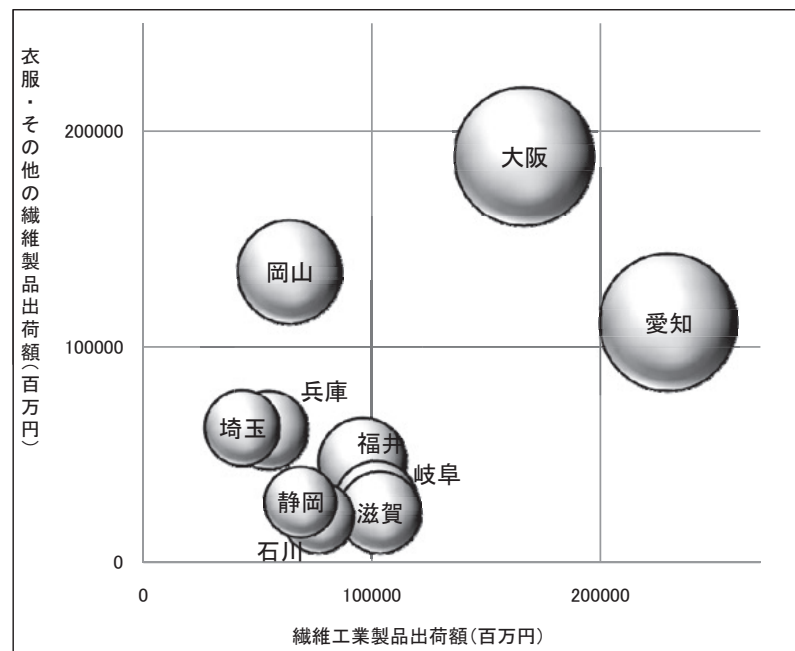
日本ジーンズ協会発表

＜図表6＞代表的産地の繊維工業製品・衣服その他の繊維製品出荷額と傾向

	繊維工業製品 (百万円)	衣服・その他の繊維製品 (百万円)	合計 (百万円)
全国	1,564,238	1,509,195	3,073,433
大阪	166,809	187,825	354,634
愛知	230,041	110,953	340,994
岡山	64,203	134,518	198,721
福井	96,110	46,462	142,572
岐阜	102,111	27,381	129,492
滋賀	103,649	22,859	126,508
兵庫	55,121	61,001	116,122
埼玉	43,663	62,206	105,869
石川	76,742	20,530	97,272
静岡	68,991	27,678	96,669

円の大きさは出荷額の大きさを示す

平成19年工業統計表「品目編」データ
2. 品目群による都道府県別出荷額
(産業中分類別、従業者4人以上の事業所)



＜図表7＞繊維工業の県別順位

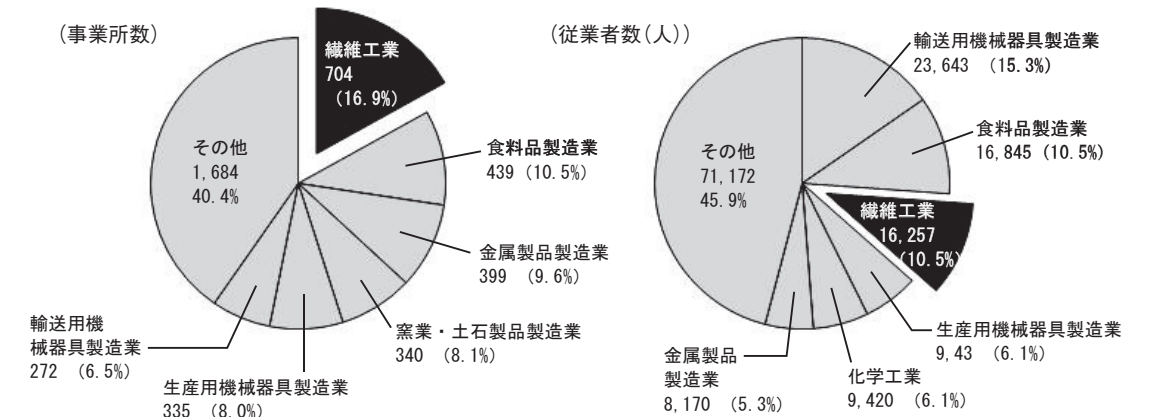
繊維工業											
順位	地域名	製造品出荷額等 (百万円)		順位	地域名	従業者数 (人)		順位	地域名	事業所数	
		シェア	順位			シェア	順位			シェア	順位
1	愛知	536,554	11.4%	1	愛知	26,121	7.5%	1	大阪	1,832	9.2%
2	大阪	414,439	8.8%	2	大阪	23,166	6.7%	2	愛知	1,717	8.7%
3	岡山	316,285	6.7%	3	福井	17,764	5.1%	3	京都	1,245	6.3%
4	福井	277,486	5.9%	4	岡山	16,257	4.7%	4	岐阜	891	4.5%
5	滋賀	218,046	4.7%	5	京都	14,083	4.1%	5	東京	871	4.4%
6	石川	212,026	4.5%	6	石川	13,022	3.7%	6	石川	775	3.9%
7	岐阜	192,079	4.1%	7	岐阜	12,572	3.6%	7	福井	770	3.9%
8	京都	158,139	3.4%	8	兵庫	10,761	3.1%	8	岡山	704	3.5%
9	愛媛	154,971	3.3%	9	愛媛	8,818	2.5%	9	兵庫	628	3.2%
10	兵庫	153,398	3.3%	10	滋賀	8,594	2.5%	10	新潟	618	3.1%
	その他37県	2,054,310	43.8%		その他37県	196,562	56.5%		その他37県	9,796	49.4%
	全国計	4,687,733	100.0%		全国計	347,720	100.0%		全国計	19,847	100.0%

平成20年工業統計表「産業編」データ 3. 都道府県別、東京特別区・政令指定都市別統計表
(1) 従業者4人以上の事業所に関する統計表 (2) 産業中分類別事業所数、従業者数等

＜図表8＞県内製造業における繊維産業の順位

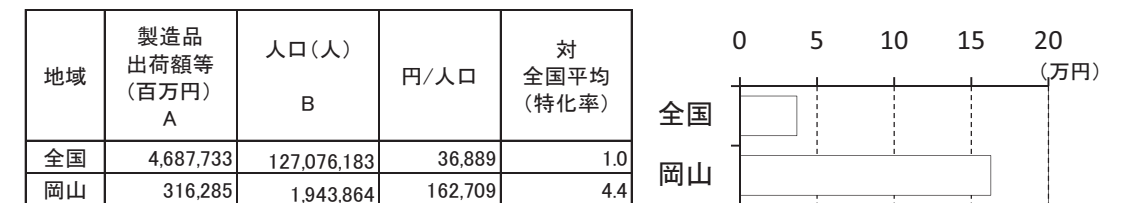
産業中分類	事業所数	従業者数 (人)		製造品 出荷額等 (百万円)	
		順位	順位	順位	順位
製造業計	4,173		154,950		8,716,251
食料品製造業	439	2	16,845	2	434,336
飲料・たばこ・飼料製造業	88	16	1,561	21	188,617
繊維工業	704	1	16,257	3	316,285
木材・木製品製造業(家具を除く)	131	10	2,159	17	62,474
家具・装備品製造業	136	9	2,068	18	29,601
パルプ・紙・紙加工品製造業	80	18	2,842	15	86,757
印刷・同関連業	192	8	5,162	14	126,175
化学工業	111	14	9,420	5	1,342,961
石油製品・石炭製品製造業	24	23	1,181	22	892,858
プラスチック製品製造業(別掲を除く)	212	7	7,998	7	259,225
ゴム製品製造業	86	17	5,194	13	126,588
なめし革・同製品・毛皮製造業	9	24	82	24	359
窯業・土石製品製造業	340	4	6,926	11	218,777
鉄鋼業	94	15	7,875	8	1,428,743
非鉄金属製造業	41	20	1,904	19	93,767
金属製品製造業	399	3	8,170	6	224,244
はん用機械器具製造業	119	13	7,091	10	319,694
生産用機械器具製造業	335	5	9,443	4	222,447
業務用機械器具製造業	30	21	895	23	21,101
電子部品・デバイス・電子回路製造業	49	19	7,817	9	480,368
電気機械器具製造業	131	10	5,893	12	202,707
情報通信機械器具製造業	27	22	2,779	16	124,481
輸送用機械器具製造業	272	6	23,643	1	1,472,718
その他の製造業	124	12	1,745	20	40,970

＜図表9＞県内製造業における繊維産業のシェア



(図表8、図表9)平成20年工業統計表「品目編」データ 第1部 製造品に関する統計表
2. 品目群による都道府県別出荷額(産業中分類別、従業者4人以上の事業所)

＜図表10＞繊維産業の製造品出荷額(人口一人あたり)



A:平成20年工業統計表「産業編」データ 3. 都道府県別、東京特別区・政令指定都市別統計表
(1) 従業者4人以上の事業所に関する統計表 (2) 産業中分類別事業所数、従業者数等
B:総務省発表報道資料 住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数
(平成21年3月31日現在 上記A統計直近)

本文で述べたものを含めこのような品目が全国で上位を占めています。(平成20年工業統計調査)

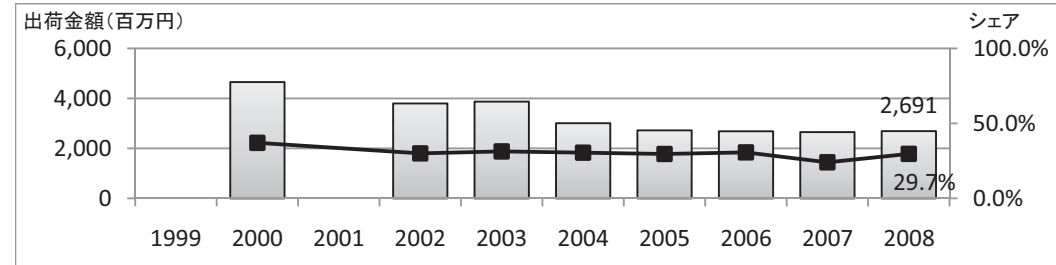
※出荷金額は岡山県の出荷金額。シェアは出荷金額の全国シェア。

1位



合成繊維縫糸

天然繊維以外のナイロン、ポリエステルなどの縫糸。県北のメーカーで多く作られている。



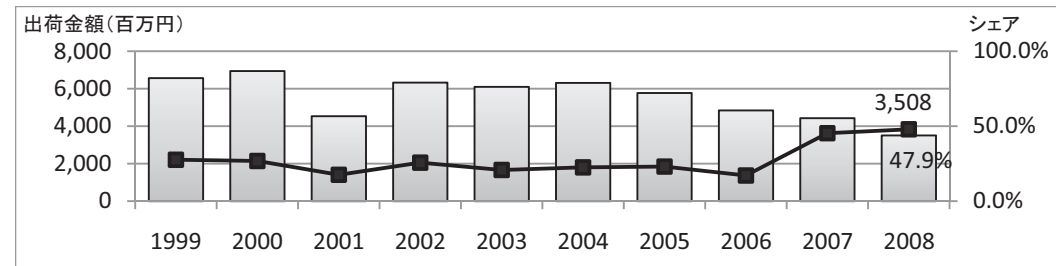
※1999年と2001年は生産事業所数が少なく秘匿のためデータは非公開となっています。

出荷金額(百万円)
2,691
シェア
29.7%



その他の綿広幅糸染織物

染色された糸で織り上げる綿織物。デニム、ダンガリー、チェック地など。

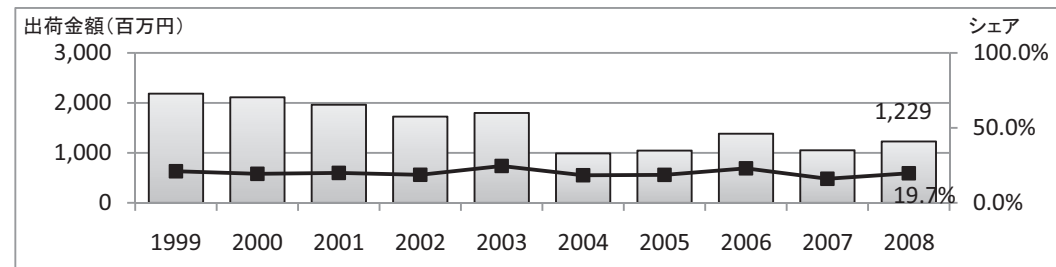


出荷金額(百万円)
3,508
シェア
47.9%



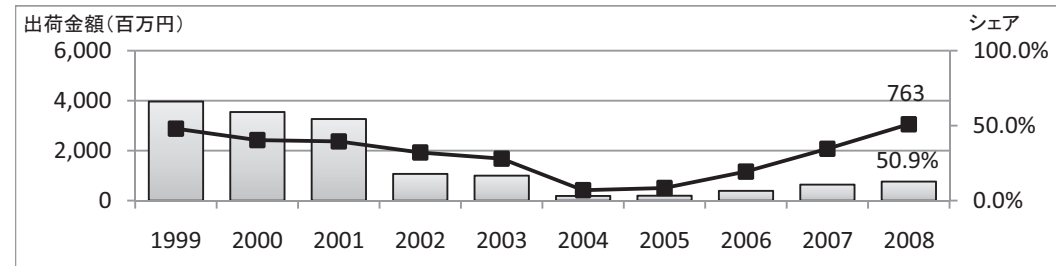
織物製成人男子・少年用制服

制服とはここでは警察、消防、自衛隊などの官公需用の制服。その上衣類やズボン。



上衣・オーバーコート類

出荷金額(百万円)
1,229
シェア
19.7%



ズボン

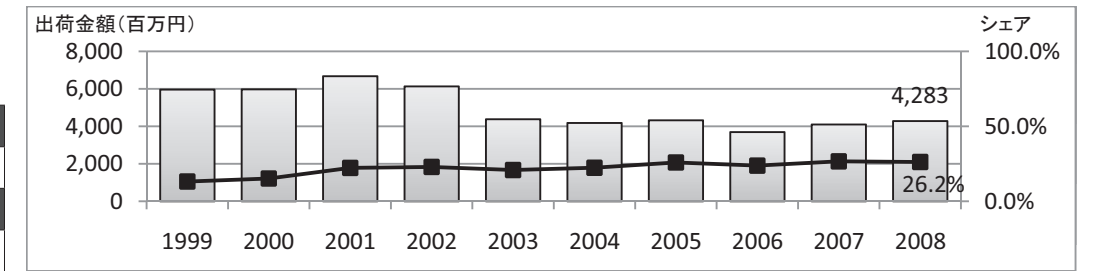
出荷金額(百万円)
763
シェア
50.9%



織物製ワイシャツ

ドレスシャツ、カッターシャツとも呼ばれる。県下では学校向けのものが多い。

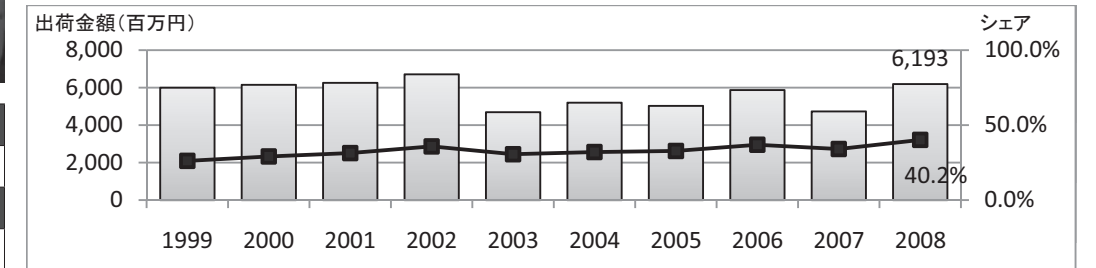
出荷金額(百万円)
4,283
シェア
26.2%



繊維製袋

麻袋、ガンニーバッグ、ヘッシャンバッグ、南京袋、スフ袋、合成繊維袋など(身の回りの袋物以外)。

出荷金額(百万円)
6,193
シェア
40.2%



織物製事務用・作業用・衛生用衣服

働く人、作業する人向けの織物製の衣服全般。ジーンズもここに含まれる。

※グラフP30参照

出荷金額(百万円)	シェア
33,642	34.2%



織物製校服

詰襟、ブレザー、セーラー服などの学生服。

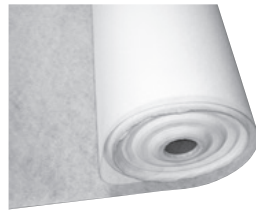
※グラフP28参照

出荷金額(百万円)	成人男子・少年用		成人女子・少女用	
	上衣・オーバーコート類	ズボン	上衣・オーバーコート類	スカート・ズボン
33,642	27,076	5,756	4,484	3,383
シェア	79.4%	80.7%	39.4%	38.0%

2位

プレスフェルト生地(ニードルを含む)、不織布(乾式)

不織布は繊維を織物にせず、絡み合わせて作った布。フェルトは繊維を集めて圧縮し、シート状にしたもの。



出荷金額(百万円)	シェア
21,770	10.7%

織物製成人女子・少女用スカート・ズボン

小学生～成人女子用のスカートやズボン。



出荷金額(百万円)	シェア
5,153	15.5%

ニット製スポーツ用上衣、ズボン・スカート

ジャージなどの編み生地を使用したスポーツ向け衣料。県下では学校体育衣料も多い。



出荷金額(百万円)	シェア
5,652	20.6%

出荷金額(百万円)	シェア
2,511	17.1%

3位

その他の綿広幅生地織物

染色していない糸で織り上げる織物。白生地と呼ばれるものや、生成り生地。後で染める場合もある。綿帆布やカッタギ、ギャバジンなど県内で幅広く作られている。



出荷金額(百万円)	シェア
2,922	13.2%

織物製成人女子・少女用オーバー・レインコート

小学生～成人女子用の織物製の衣服のうち、トッパーコート・スプリングコート・ママコート等、防寒や防雨のための上衣。



出荷金額(百万円)	シェア
540	13.1%

ナイロン漁網

結び目のある有結節網と無結節網があり県南東部で有結節網が多く作られ、刺し網漁に使われている。



出荷金額(百万円)	シェア
1,251	19.5%

織物製成人男子・少年用背広服ズボン(替えズボンを含む)

小学生～成人男子用のスラックスなど。成人向けはスポーツカジュアル傾向のものが増えている。



出荷金額(百万円)	シェア
1,915	14.9%

織物製乳幼児服

未入学児童向けの織物製衣服。上衣、ズボン、スカート、レインコート、ロンパース、園児服等。



出荷金額(百万円)	シェア
1,138	15.9%

合成繊維帆布製品

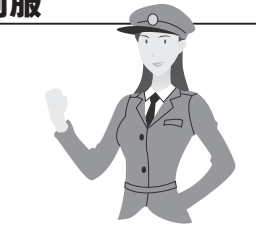
合成繊維の帆布を使った、シート、テント、日よけ、幌等。



出荷金額(百万円)	シェア
7,041	12.2%

織物製成人女子・少女用制服

警察、消防、自衛隊などの官公需用の女性用の制服。



出荷金額(百万円)	シェア
125	12.8%

織物製その他のシャツ

ワイシャツ以外の開襟シャツ・襟なしシャツ、アロハシャツ等



出荷金額(百万円)	シェア
421	15.2%

織物製帽子

ここでは麦わら帽以外の帽子を指す。麦わら帽製造から発展して県南西部が主な産地。ユニフォーム向けも多い。



出荷金額(百万円)	シェア
1,405	10.7%

対象：県内に製造事業所を有する繊維企業の本社・本社が県外の場合は県内製造事業所
 実施時期：平成22年7月13日(火)～8月31日(火)
 ※問5～問8は製造事業所に関する設問
 ※バーの最長は最大値を表す

問1 貴社の従業員数をお答えください。

回答事業所数	138
未回答事業所数	4

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 10人未満	52	38%	
2 10～29人	39	28%	
3 30～49人	17	12%	
4 50～99人	13	9%	
5 100～299人	12	9%	
6 300～499人	1	1%	
7 500人以上	4	3%	
計	138	100%	

問2 貴社の直近期の売上をお答えください。

回答事業所数	138
未回答事業所数	4

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 1000万円未満	11	8%	
2 1000万～3000万円未満	15	11%	
3 3000万～5000万円未満	16	12%	
4 5000万～1億円未満	19	14%	
5 1億～3億円未満	20	14%	
6 3億～10億円未満	29	21%	
7 10億～50億円未満	22	16%	
8 50億円以上	6	4%	
計	138	100%	

問3 貴社の主な取引形態をお答えください。

回答事業所数	136
未回答事業所数	6

(複数回答あり)

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 自社ブランドによる企画・製造・販売	64	43%	
2 OEM生産	24	16%	
3 企画販売・生産は外注	12	8%	
4 買加工	46	31%	
5 その他	3	2%	
計	149	100%	

問4 貴社の生産品目について、品目一覧表から主力品目の〔 〕に◎、その他該当するものに○をしてください。

回答多数のため省略

問5 環境への配慮のため実施していることすべてに○をしてください。

回答事業所数	98
未回答事業所数	44

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 低環境負荷設備の導入	15	9%	
2 リサイクル素材の活用	44	26%	
3 省エネルギー社内活動の実施	50	29%	
4 環境配慮型商品の開発・強化	25	15%	
5 騒音・土壌・水質汚染対策徹底	19	11%	
6 ケミカル・マテリアルリサイクルシステム導入	8	5%	
7 その他	9	5%	
計	170	100%	

問6
全販売数量（直近決算期）のうち環境配慮製品の割合はどのくらいですか。

回答事業所数 103
未回答事業所数 39

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 なし	41	40%	
2 10%未満	37	36%	
3 10～20%未満	10	10%	
4 20～30%未満	5	5%	
5 30～40%未満	4	4%	
6 40～50%未満	2	2%	
7 50～60%未満	0	0%	
8 60～70%未満	1	1%	
9 70～80%未満	0	0%	
10 80%以上	3	3%	
計	103	100%	

問7
どのような点に現在地に立地しているメリットを感じますか。（上位2つに○をしてください）

回答事業所数 123
未回答事業所数 19

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 人材を得やすい	18	10%	
2 情報を入手しやすい	21	11%	
3 周辺業種が揃っている	49	26%	
4 産地内連携しやすい	33	17%	
5 適切な分業体制ができている	22	12%	
6 特になし	41	22%	
7 その他	5	3%	
計	189	100%	

問8
工場見学やワークショップなどの対応状況を教えてください。（複数回答可）

回答事業所数 74
未回答事業所数 68

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 企業・団体に対応している	33	38%	
2 個人に対応している	20	23%	
3 予約制	8	9%	
4 定期的に行っている	2	2%	
5 その他	23	27%	
計	86	100%	

問9
海外生産数量の比率はどのくらいですか。

回答事業所数 130
未回答事業所数 12

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 なし	89	68%	
2 10%未満	3	2%	
3 10～20%未満	4	3%	
4 20～30%未満	5	4%	
5 30～40%未満	4	3%	
6 40～60%未満	6	5%	
7 60～80%未満	2	2%	
8 80%以上	17	13%	
計	130	100%	

問10
岡山県内での生産比率はどのくらいですか。

回答事業所数 125
未回答事業所数 17

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 なし	12	10%	
2 20%未満	16	13%	
3 20～40%未満	10	8%	
4 40～60%未満	13	10%	
5 60～80%未満	8	6%	
6 80～100%未満	10	8%	
7 100%	56	45%	
計	125	100%	

問11
輸出についてお答えください。

回答事業所数 114
未回答事業所数 28

回答内容	回答	比率(%)	度数分布表
1 している	20	18%	
2 検討している	21	18%	
3 今後も考えていない	73	64%	
計	114	100%	

参考文献

- 大谷壽文 「児島の特産物 児島の三白」 大谷壽文発行 2001
- 角田直一 「児島の日本一物語」 児島ライオンズクラブ 1988
- 角田直一 「児島機業と児島商人」 児島青年会議所 1975
- 多和田彦 「児島産業史の研究 塩と繊維」 児島の歴史刊行会 1959
- ファッションタウン児島推進協議会（児島商工会議所）「ファッションタウン児島 アンケート・ヒアリング報告書」 2000
- 同 「ファッションタウン児島 ビジョン2001」 2001
- 山陽新聞社編集局 「せとうち産業風土記」 山陽新聞社 1977
- 岡山県郷土文化財団 「岡山の自然と文化 郷土文化講座から19」 2000
- 岡山県史編纂委員会 「岡山県史 第10巻 近代Ⅰ」
発行 岡山県 出版 山陽新聞社 1985
- 同 「岡山県史 第12巻 近代Ⅲ」 発行 岡山県 出版 山陽新聞社 1989
- 同 「岡山県史 第13巻 現代Ⅰ」 発行 岡山県 出版 山陽新聞社 1984
- 倉敷市史研究会「新修倉敷市史 第5巻近代上」 発行 倉敷市 出版 山陽新聞社 2002
- 同 「新修倉敷市史 第6巻近代下」 発行 倉敷市 出版 山陽新聞社 2004
- 津山市史編さん委員会 「津山市史 第6巻 現代Ⅰ」 発行 津山市 1985

写真協力（50音順）

- | | |
|---------------|---------------|
| 明石被服興業(株) | (株)タカラ |
| 石井織物工場 | (有)ダニアジャパン |
| ウェブクリエイティブ(株) | 中国・四国繊維資材工業組合 |
| 鳥城物産(株) | (株)ドミンゴ |
| 襟立製帽所 | (株)寅彦 |
| 大川被服(株) | (株)トンボ |
| 岡山県アパレル工業組合 | ナイカイ企業(株) |
| (株)荻野本店 | (株)ビッグジョン |
| (株)カセヤマ | 美東(有) |
| 河合産業(株) | 豊和(株) |
| 倉敷市教育委員会 | (有)マルミツアパレル |
| 倉敷繊維加工(株) | 森 貫治 |
| コトセン(株) | 森長(株) |
| (株)ショーワ | (有)柳生写真館 |
| (株)神馬本店 | 横山製網(株) |
| 角南被服(有) | 吉河織物(株) |
| スミクラ(株) | |

発 行

平成23年2月

岡山県産業労働部産業振興課

〒700-8570 岡山市北区内山下二丁目4番6号

電話：086-226-7352 FAX：086-224-2165

編 集

倉敷ファッションセンター株式会社

〒711-8555 岡山県倉敷市児島駅前一丁目46番地

電話：086-474-6800 FAX：086-474-6801

<http://www.k-fc.com/>

関連発刊

「おかやまのせんい」（カラー30ページ）

無断転載禁止

（上記までお問い合わせ下さい）